

20 立山砂防における広報活動について

立山砂防工事事務所 所 長 五十嵐 武
調査課長 牧 野 裕 至
調査課 ○保 要 牧 央

1. はじめに

国家の財政が危機状態である現在、予算が伸び悩み、建設省においても事業を計画的に執行するのに必要な予算の確保さえも困難となっている。予算が伸び悩んでいる原因の一つとして、建設省が行っている事業を国民によく理解されていないということが挙げられるであろう。理解のない所にニーズは発生しづらい。

2. 建設省における広報活動

このようなことから、建設省においても、公共事業についての広報活動を積極的に押し進めている。

建設省が行っている主な広報活動としては、

- | | |
|-------------|------------|
| ①. 河川美化月間 | 4月1日～4月30日 |
| ②. 土砂災害防止月間 | 6月1日～6月30日 |
| ③. 河川愛護月間 | 7月1日～7月31日 |
| ④. 海岸愛護月間 | 7月1日～7月31日 |
| ⑤. 水の週間 | 8月1日～8月7日 |
| ⑥. 道路をまもる月間 | 8月1日～8月31日 |
| ⑦. 防災の日 | 9月1日 |

等がある。

公共事業をPRし、どんなことをやっているか、内容をよく住民に知ってもらうことによって、災害等が発生したときに、よく天災か人災かで論争がなされるが、この場合にも、無意味な争いが少なくなっていくのではないと思われる。

建設省では、公共事業の必要性を訴えるために広報活動を行ってきたが、その方法はポスターの掲示、ビラ・記念品の配布等、こちら側からの一方通行的なPRが主流である。この場合、住民に深く根差したPRにはなりづらい面が多々ある。ポスターやビラで、どんな公共事業をやっているのかを知るよりも、実際に自分の足を使って現場を歩き、自分の目を通して見るといった、住民に参加してもらうような形でのPRの方が、より効果があるように思われる。



写真-1 土砂災害防止月間

3. 立山砂防工事事務所の広報活動

そこで、立山砂防工事事務所では、あまり一般に知られていない「砂防」、特に「水系砂防」を知ってもらおうと、いろんな広報活動を繰り広げている。ここに、これまでの実施例と、今後の計画を紹介する。

1). 昭和59年度の実施例（昭和60年も継続予定）

①. 管内見学会

昭和59年度から富山県と共催し、(社)全国治水砂防協会富山県支部・立山支部、(社)北陸建設弘済会の協力を得て、原則として県内の一般住民を対象とした管内の見学会を実施している。

②. 管内レリーフ

立山・黒部アルペンルートの玄関口である立山駅の駅前広場に設置している。

③. 案内板

来客・地域住民・観光客等に立山砂防工事事務所の所在を明らかにし、砂防事業を紹介するために設置している。特に、立山・黒部アルペンルートでは約100万人の入り込みであるので、PR効果が期待出来る。

④. リーフレット「立山探訪」

誰もがイメージしている美しい立山を違った角度から紹介したもので、夏場にやってくる登山観光客を対象に配布した。

⑤. 写真展

- i. 登山観光客が大勢やって来る夏場に、立山駅構内に於いて開いた。
- ii. “土砂災害防止月間キャンペーン”に合わせて、黒部工事事務所と富山県との共同で開いた。

2). 今後の計画

①. 写真集「雷鳥物語」

立山砂防のことを、立山のシンボルであり富山県鳥である雷鳥を擬人化することによって、雷鳥の眼を通して紹介したもので、これを配布する。なお、教育センターからは、副読本として使いたいと早くも問い合わせがきている。

②. 資料館「カルデラ」

立山砂防が丁度60周年を迎えることから、それを記念して立山砂防に関するいろんな展示物を置いて、理解を深めてもらうために昭和60年6月から開館する。

③. 講演会

60周年記念行事として、立山砂防工事事務所、(社)北陸建設弘済会、(社)全国治水砂防協会立山支部の共催で、プロスキーヤーの三浦雄一郎さん、郷土作家の遠藤和子さんを講師に招いて立山と砂防

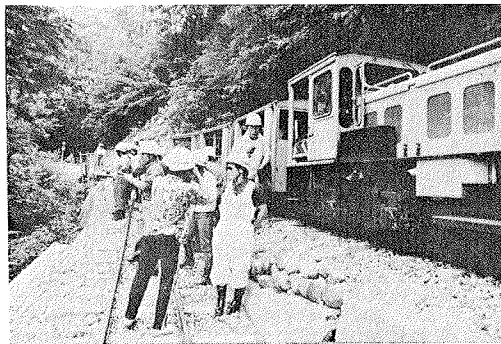


写真-2 管内見学会

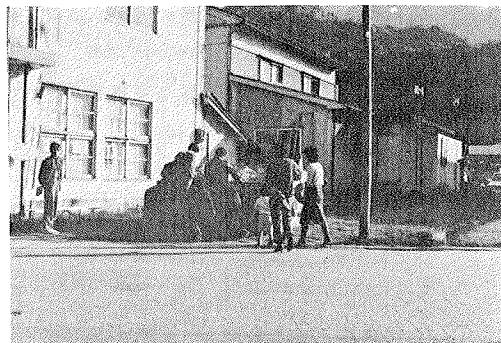


写真-3 管内レリーフ

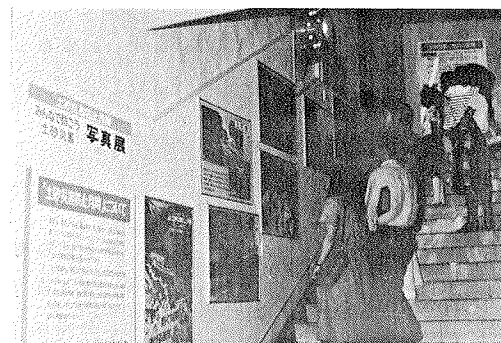


写真-4 写真展

のことについて、一般の方々を対象に講演会を開催する。

- i. 日 時 昭和60年 6月13日 (木)
13:00 ~ 16:00
- ii. 場 所 ボルファートとやま 大ホール
(富山市奥田新町81)
- iii. その他 入場は無料

ここで、大変に好評だった見学会について紹介する。

1). 実施要領

①. 対象

原則として県内の居住者

②. 見学コース

県庁前 ———— 立山砂防工事事務所 ————
7:30 (バス) 8:40 (軌道)
水谷平 ———— 現場見学 (蘆山崩壊地)
(バス、徒歩)
————— (有峰・真川林道経由) ————
(バス) (バス)
立山砂防工事事務所 ———— 県庁前
17:00 (バス) 18:10

③. 申し込み方法

パンフレットを市町村の窓口配布してあるので
所定の往復ハガキで申し込む。

④. 定員

40名 (1回当たり)

⑤. 年間計画 (昭和60年度)

	実 施 日	申し込み締切日	予備日
第1回	6月28日 (金)	6月8日 (土)	7月2日 (火)
第2回	7月23日 (火)	6月28日 (金)	7月25日 (木)
第3回	8月6日 (火)	7月11日 (木)	8月8日 (木)
第4回	8月21日 (火)	8月1日 (木)	8月23日 (金)

⑥. その他

見学者の方々には、現場にでる前に予備知識をつけてもらおうと、「立山砂防 (砂防の源流常願寺川を訪ねて)」という広報映画を見てもらい、また、管内のことを説明したパンフレットを配布している。

2). 反響

記者発表によって見学会のことをはじめて発表したわけであるが、発表の翌日、地元新聞に一面トップで取り上げられ、その結果多数の申し込み希望者が殺到した。昭和59年度の申し込み希望者の、定員



写真-5 管内見学会

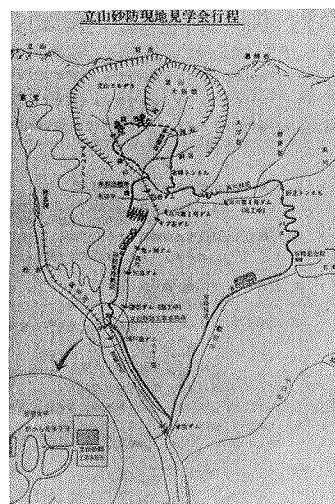


写真-6 見学コース

に対して倍率は、1回当たり平均して13倍強にも上った。

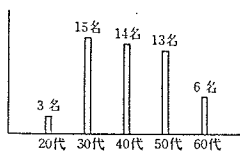
また、この反響によって、マスコミからもクローズアップされるという良い結果を得ることが出来た。ここで、報道された主なものをピックアップすると下表のようになる。

	日付	社名	見出し		日付	社名	見出し
新	4.7	富山	カルデラ開放	テ	6.14	富山	災害危険地チェック
	5.31	朝日	立山カルデラを紹介	レ	6.21	NHK	果てしなき砂との闘い
	6.22	読売	自然との果てしなき闘い	ビ	6.21	北日本	見学会実施
聞	6.22	富山	立山カルデラを紹介	ラ	6.20	NHK	ネットワークトピクス
	7.4	北日本	雄大な景観に歓声	ジ	7.6	北日本	クローズアップ新川

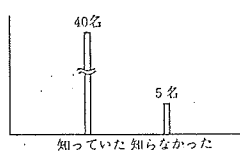
なお、見学会終了後、アンケートを実施したので、その一部を報告する。

(アンケート)

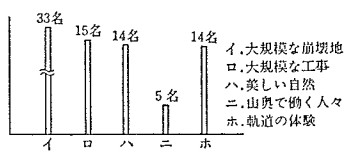
参加者の年齢構成



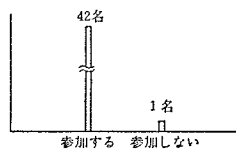
見学会以前に「砂防」という言葉を知っていましたか



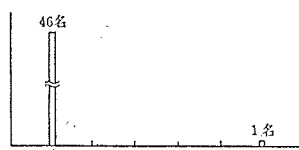
見学会で最も印象に残ったものは、何でしょうか



機会があれば見学会に参加しますか

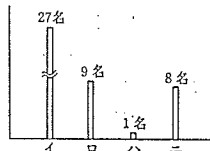


事業の必要性



イ、立山砂防は、富山平野を護る非常に大切な事業だと思った。
ロ、山の中での工事は必要ではない。
ハ、特に必要性はない。
ニ、何とも言えない。
ホ、判らない。
ヘ、その他

事業の拡大



イ、常願寺川の安定化を図るには、砂防事業の拡大が必要である。
ロ、現況程度の事業規模で充分である。
ハ、投資規模は、大きすぎる。縮小すべきである。
ニ、判らない。

4. おわりに

以上のアンケート調査結果からも分かるように、同じ広報活動を実施するにしても、住民参加という形をとれば非常に効果があり、主催者の方としても直に反応が分かり充分な手応えを得ることが出来た。

また、広報活動を繰り広げる上で非常に有効な手段である新聞やテレビ、ラジオといったマスコミに、公共事業というものを正しく理解してもらって相互依存していくことが、これから大切になってくるであろう。

立山砂防工事事務所では、こういった広報活動を今後も続けていくつもりである。また、より良い広報活動の方法についても調査を進めていき、これからは公共事業に対する住民の理解を深め、さらには協力してらえるように努力していくつもりである。